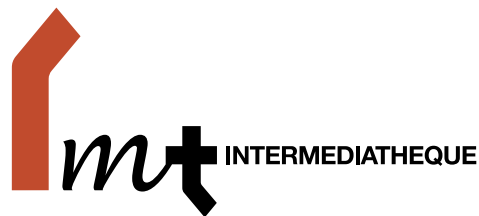


# PRESS RELEASE



インターメディアテク  
100 7003 東京都千代田区丸の内2-7-2  
JPタワー/KITTE 2-3F  
www.intermediatheque.jp

## 特別展示『蘭花百姿——東京大学植物画コレクションより』のご案内

2021年5月吉日

この度、JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」では、東京大学コレクションより、「蘭」が描かれた植物画を一堂に集めた特別展示を開催いたします。明治時代の大学草創期から、東京大学の植物学研究の傍らでは、その発展を支えるための植物画制作が行われてきました。植物を観察して正確に描いた植物画は、植物学研究の発展に欠かせない科学的価値をもち、一方で画家の手技になる絵画としての質の高さには美術的価値を見出すことができる学術資料です。本特別展示は、連続企画「インターメディアテク博物誌シリーズ」の第八回として、多種多様な蘭の姿を科学的に観察するとともに美術的に賞玩する格好の機会となります。

### ■本展覧会の特徴

#### 「蘭花百姿（らんかひやくし）さまざまに咲き匂う博物誌」

- 明治期から現代まで、東京大学の植物学研究の傍らで描かれてきた多種多様な蘭の植物画とその関連展示物が一堂に会する特別展示です。明治期の写生図 26 点の植物画をはじめ、総数 100 点超の展示物のほとんどが初公開となります。
- 植物画原画と合わせて、東京大学所蔵のラン科植物標本、研究論文とともに印刷物に掲載された図版を展示し、東京大学におけるこれまでのラン科植物研究の一端をわかりやすく紹介します。
- 19 世紀に英仏で出版された大判の蘭図譜や、蘭の鑑賞や趣味に関わる盆器（植木鉢）、写真、絵葉書等の関連資料を展示し、自然誌から文化史まで、蘭を多角的な視点から捉える機会となります。

### ■基本情報

名 称：インターメディアテク博物誌シリーズ<8>  
特別展示『蘭花百姿——東京大学植物画コレクションより』  
会 期：2021年6月19日-9月26日  
時 間：11:00-18:00（金・土、7/22、8/8-12、9/19は20:00まで開館）\*時間は変更する場合があります  
休館日：6/21、6/27、6/28、7/5、7/12、7/19、8/2（展示更新により本展示会場のみ部分閉館）、8/23、  
9/6-13、9/21、その他館が定める日  
会 場：インターメディアテク2階「GREY CUBE（フォーラム）」  
主 催：東京大学総合研究博物館  
協 力：東京大学大学院理学系研究科附属植物園+クリスチャン・ポラック+遊川知久（国立科学博物館  
筑波実験植物園）  
協 賛：イカリ消毒株式会社  
入館料：無料  
住 所：東京都千代田区丸の内2-7-2 KITTE 2・3F  
アクセス：JR東京駅丸の内南口から徒歩約1分、東京メトロ丸の内線東京駅地下道より直結、千代田線二重橋前  
駅（4番出口）より徒歩約2分

## ■展示の見所

蘭と言えば、その花や葉の独特の色・形の美しさから、一般に圧倒的な人気を誇る植物のひとつです。洋蘭・東洋蘭を問わず、多彩な蘭が鑑賞価値の高いものとして人々の眼を楽しませてきました。一方で、乱獲や開発により絶滅の危機に瀕している蘭も多く、その保全はさらなる社会的関心を惹起していく必要のある今日の問題となっています。ラン科植物とは、分類学上、被子植物の中で最も種数が多く、多様な地域と環境に生育することで知られています。そのため、ラン科植物の多様性は、国内外でフィールド調査を行う、東京大学のさまざまな植物学研究者の研究対象となってきました。本展示の中心となるのは、植物学研究のために多岐にわたる種類の蘭を写し取り、記録に留めてきた東京大学植物画コレクションです。加藤竹斎や渡部鋏太郎といった明治時代の画工の手になる写生図は、東京大学揺籃期の学問の有様を伝える歴史的資料として価値が高く、近代日本における初期の植物写生表現としても注目されます。これらの植物画はすべて初公開となります。現代の標本図作家・中島睦子による精緻な写生図は、完成図の前に描かれたスケッチも合わせて2013・2016年に総合研究博物館に寄贈されたもので、今回がお披露目となります。制作のために参照された当館所蔵の植物標本と並べ合わせた展示により、科学的な植物画制作のプロセスを辿ることができる貴重な資料体となっています。さらに、東京大学初代植物学教授の矢田部良吉をはじめ、牧野富太郎、前川文夫など、歴代の研究者らが収集した標本、彼らが研究成果を発信した出版物を展示し、今日までの東大植物学におけるラン科植物研究の一端を学術的に紹介します。ほかに、19世紀に出版された西洋の大判蘭図譜、蘭の鑑賞や趣味の文化史を物語る盆器、写真、絵葉書等の関連資料を合わせて展示し、蘭の博物誌を楽しむことができる構成とします。本展示では、前期(6月19日-8月1日)・後期(8月3日-9月26日)で一部の植物画および標本の入替を行い、総点数「百」超となる蘭コレクションをご覧に入れます。

## ■お問い合わせ先

050-5541-8600

国外からは+81-47-316-2772 (ハローダイヤル)

## ■主要展示物

### 1. マメツタラン *Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo (部分)

作者未詳(大久保三郎か) / 1882(明治15)年6月10日 / 紙に着色、鉛筆 / L345×W250mm / 東京大学総合研究博物館所蔵

### 2. ホウサイ *Cybidium sinense* (Andrews) Willd.

渡辺鋏太郎 / 1887(明治20)年2月8日 / 紙に着色 / L331×W237mm / 東京大学総合研究博物館所蔵

### 3. ラン科4種

高屋肖哲 / 1905(明治38)年10月30日 / 紙に着色 / L334×W238mm / 東京大学総合研究博物館所蔵

### 4. カキラン *Epipactis thunbergii* A.Gray

山田壽雄 / 1914(大正3)年7月9日 / 紙に着色 / L232×W149mm / 東京大学総合研究博物館所蔵

### 5. キバナノアツモリソウ *Cypripedium yatabeanum* Makino

中島睦子 / 1995(平成7)年1月12日 / 紙にインク / L365×W254mm / 東京大学総合研究博物館所蔵

# 白蘭姿花

Intermediatheque Natural History Series <8>  
Special Exhibition

## Orchids Blossom — Botanical Art Collections from the University of Tokyo

東京大学植物画コレクションより



1



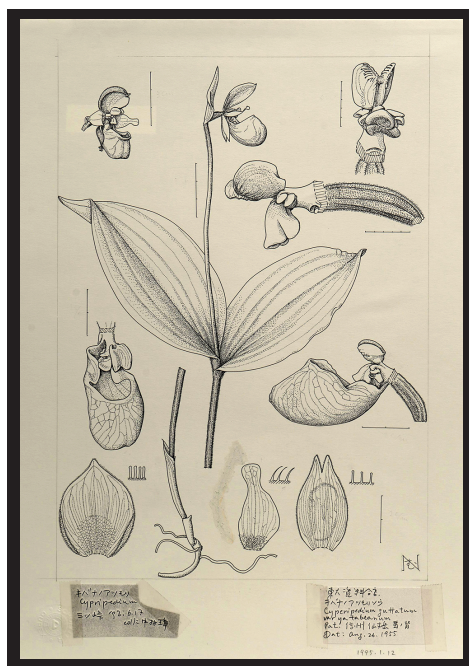
3



2



4



5